

無所属(31才)

討議資料

# 岩本 ゆうすけ

PRESS  
YUSUKE  
IWAMOTO  
Vol. 6

## ご存知ですか？ 枚方市の台所事情

● 国家財政は、新聞・メディアで頻繁に取り上げられますが、私たちの住む枚方市の台所事情は、見る・知る機会が多くありません。  
枚方市の借金である市債と人口の推移、他市との比較を行うことで、皆さんに現状を知って頂きたいと思えます。

● 次世代にツケを残さない！  
裏面へどうぞ



# 枚方市借金928億超 少子高齢社会を迎え 高まる財政危機

## 他、岩本ゆうすけが取り組みたい事

- 未来に希望を持てる、社会を生き抜く子どもを育成  
⇒ キャリア職業教育の充実、自然とふれあう”いのち”の大切さを教える  
⇒ 親学(家庭教育)推進、土曜日学校、地域コミュニティ共有
- 若者世代・子育て世代の積極的誘致  
⇒ 病児保育の併設支援・拡充、地元雇用の確保
- 高齢社会を前提としたまちづくり  
⇒ けが予防・予防医療・介護予防の積極的啓発  
⇒ 段差解消・ゆったりした歩道・大きな文字などのUD推進
- 環境保護・自給自足推進で持続可能なまちづくり  
⇒ NPO支援、環境啓発教育の推進、就農・営農支援



### プロフィール

- S55年3月5日、大手前病院生誕
- きよし幼稚園、山田東小、山田中を経て近大附属高校卒。ユングバウムに学ぶ立命館大学法学部卒業
- H18年9月 株式会社パソナ 退社
- H19年4月 枚方市議会議員選挙 2,162票を頂戴するも、次々点にて惜敗。
- H22年3月 大阪ガスセキュリティサービス退社  
現在、牧野在住。子育て奮闘中。

- 尊敬する人：両親
- 座右の銘：修身 齐家 治国 平天下
- 好きな食物：カレーライス
- 家族構成：妻一人 娘一人 (3才)



NPO活動支援(青少年育成・食育推進)、枚方青年会議所、介護ボランティア、農業の勉強と充実した日々を過ごしております。

皆様との対話が私にとって原点、原動力です。  
ご連絡お待ちしております！

- 岩本の話が聞きたい
- 知人を紹介します
- ボランティアします
- カンパします



yusuke@ganpon.net

岩本ゆうすけ 検索

www.ganpon.net

070-6654-6679



ひとりでは 何も出来ない。  
しかし、一人が始めなければ何もはじまらない  
そのひとりになりたいのです。  
若さだけで何でもできるとは思いません。  
何とぞ、お力をお貸しください。

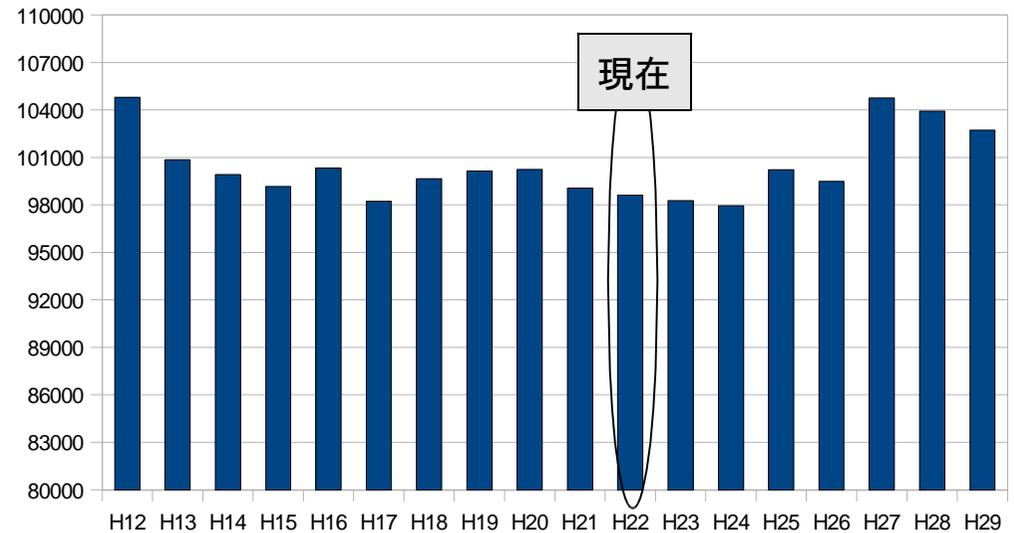
編集/発行：  
岩本優祐後援会  
枚方市東牧野町24-29  
TEL 072-851-1428  
H23年2月発行 後援会瓦版 拡大号

### ③ 地方債残高比較(21年度決算)

	地方債残高 (億)	人口(万)	一人当たり残高 (万)
枚方市	990	40.6	24.38
吹田市	598	35.4	16.89
高槻市	509	35.4	14.38
茨木市	533	27.4	19.45
寝屋川市	632	23.7	26.67
交野市	319	7.7	41.43
東京都杉並区	179	54	3.31

交野・寝屋川より少ないが、同規模の都市に比べると多い。先進的な取り組みを行っている東京の杉並区、地方債を新規発行をしない予算組みをしており、残高も約10分の1です。

### ① 枚方市・地方債残高の推移



これまでは横ばい・微減、そして今後数年は今のままだと横ばい・微増の状況と想定されています。

### ④ 岩本ゆうすけが考える財政健全化

人口が減り、働く世代が減る。地方債残高が横ばいということは結局、一人当たり負担がどんどん増加していく事になります。利息もかかる。今後の人口減少・少子高齢化を考えると、「今」財政健全化に取り組み、行政コストを下げ、市民負担の軽減が急務であると考えます。

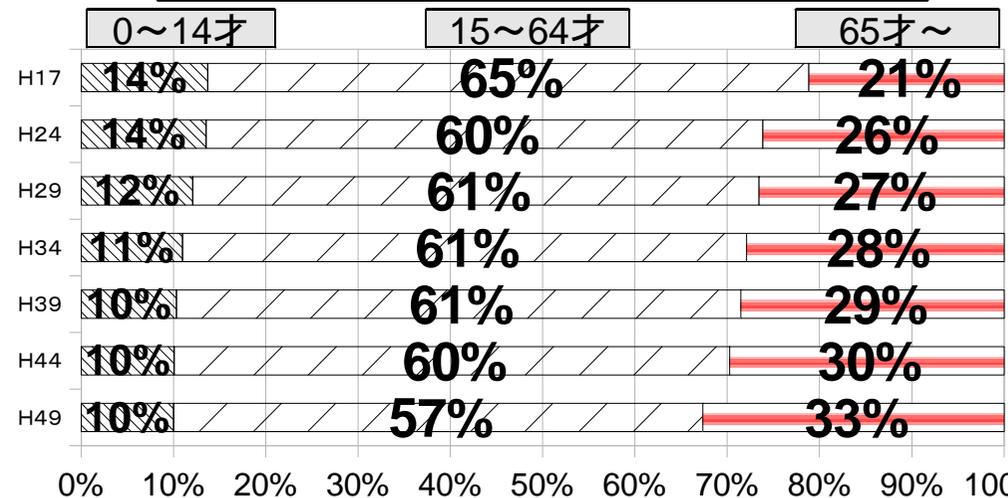
借金に頼らない街づくりを進めている自治体も出てきているのです。枚方市だって、できるはずです！

その為に必要なこと、皆さんの家庭や企業経営と同様、収入を増やし、支出を減らす。当たり前のことですが、声を上げていきたいと思えます。

- ▲ 枚方出身・ゆかりのある著名人へのふるさと納税推進
- ▲ 企業誘致・起業推進(空地・空室の活用による税収増・雇用確保)
- ▲ 学生の卒業後も定住化促進・他市からの若年・壮年層の取り込み
- ▼ 民間委託・民営化の推進、単位コスト算出により事業の縮小
- ▼ 医療・介護費用の増加を抑制(予防医療・介護予防の推進)

これまでの行政の「あれも、これも」から、「あれか、これか」へと方向性を転換していかねばなりません。

### ② 枚方市の人口構造の変化



子どもを育て、ご高齢を支える世代(15~64才)減少が明らかです。現在2人で1人の子ども・高齢者世代を支えています。単純に、今の2倍働かないといけなくなります。